

北里 柴三郎 Shibasaburo
Kitazato

NHK大河ドラマ 実現プロジェクト

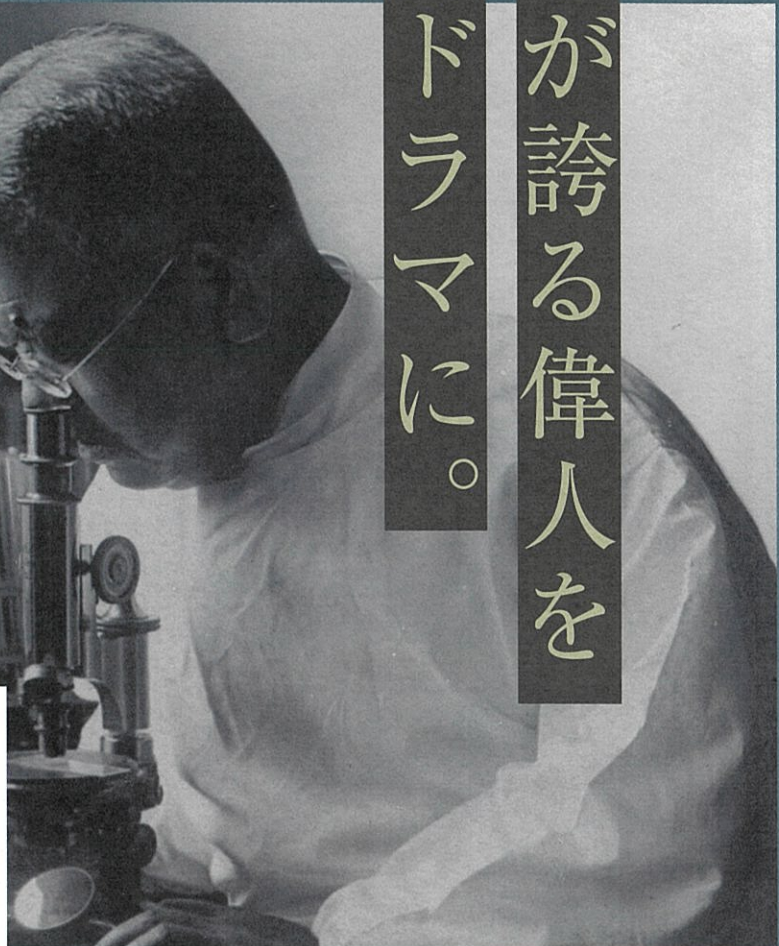


熊本が誇る偉人を 大河ドラマに。

破傷風やペスト、結核など
多くの命をおびやかす伝染病に立ち向かい
医学の発展に大きな足跡を残した北里柴三郎。
今では「近代日本医学の父」と呼ばれ
私たちの健康や暮らしの土台を築いた存在です。

そして北里柴三郎の生涯には、病気と闘うだけでなく
仲間との絆や困難との闘い
そして未来を信じて突き進む情熱にあふれた
ドラマチックな物語がつまっています。

しかしながら彼の「終始一貫」
国民の健康を願った「熱と誠」の人生が
まだ十分に伝わっていないのも現実。
だからこそ、北里柴三郎の物語を大河ドラマで届けたい。
そんな願いから、この署名活動が始まりました。



提供：学校法人北里研究所北里柴三郎記念博物館所蔵



近代日本医学の父

北里 柴三郎

細菌学者・医学博士 (1853年-1931年)

1853年1月29日、後に“近代日本医学の父”と呼ばれる北里柴三郎は、熊本県阿蘇郡小国町北里で庄屋の長男として生を受けました。江戸末期から昭和初期を駆け抜けたその人生は、「終始一貫」感染症と戦い、我が国の予防医学ために邁進した人生でした。

幼少期は親戚の家に寄宿し、儒学を学び、政治家や軍人を目指していました。しかし、周囲の希望に応じて熊本医学校に入学、そこで出会ったオランダ軍医のマンズフェルトの導きによって、医学の道を究めることを決意しました。さらに東京医学校へ進学、卒業後内務省に入省し、国費留学生としてドイツ・ベルリンのコッホの門を叩きます。そこで、世界初の破傷風菌の純粋培養に成功し、破傷風の治療法である血清療法を確立して世界の研究者の仲間入りを果たしました。1892年、帰国した北里柴三郎は、翻意ではないものの無為な日々を過ごしていましたが、福澤諭吉は「この男に活躍の場を与えないのは国家の損失だ」と土地を提供し、さらに森村市左衛門の援助を得て、私立伝染病研究所を設立します。この研究所は国立伝染病研究所となり、日本の予防医学の中心的な役割を果たしました。1914年、北里柴三郎は「北里研究所」を創立、1917年には亡き恩師福澤諭吉の恩に報いるために、慶應義塾大学医学学部長に無報酬で赴きました。1923年には「日本医師会」初代会長となり、1931年に亡くなるまで、日本の近代医学の発展に命を捧げました。

生誕地小国町には、1916年に北里柴三郎が寄贈した「北里文庫」「貴賓館」を中心に、移築された生家や、北里文庫開館時にお手植えされた夫婦杉があります。2023年9月には、新千円札肖像画採用を記念して作られた「ドンネル館」により、デジタルコンテンツと大正ノスタルジーが融合した新たな記念館として、多くの人々をお迎えしております。



提供：学校法人北里研究所北里柴三郎記念博物館所蔵

なぜ今、大河ドラマに？

北里柴三郎の功績や生き方は、まさに「現代に必要な物語」です。

感染症の脅威を経験した私たちにとって、北里柴三郎の姿は新たな気づきと勇気を与えてくれるはずです。

この偉人の軌跡を、一人でも多くの方に伝えるために、大河ドラマ化を目指す署名活動を行っています。

北里柴三郎NHK大河ドラマ実現に向けて、どうか、応援の気持ちを、署名というカタチでお寄せください。

署名はWEBからも簡単にご参加いただけます。



※ご記入いただいた情報は、署名をNHKへ提出する目的のみに使用いたします。

【署名欄】

※お名前はフルネームをお願いします。※都道府県と市区町村までご記入をお願いします。番地の記入は不要です。

氏 名	住 所	氏 名	住 所
氏 名	住 所	氏 名	住 所